に、又之が攝理裁量の任に當る經世の責任ある政治家たる統率者は、平生の抱負を以て確乎たる方針を立つるは勿論、極めて勇氣ある「誠」の人、極めて力强き信念識見を有する熱あり手腕あり力量ある重厚の人格者であつて、全國民が安心して信賴する德望ある人でなければならぬと存じます。況んや躍進日本、非常時日本に於てをやであります。而して「誠」は實に統率の眞義であります。この頃は何事を問はず一にも二にも統制々々と唱へますけれども、他人のことよりも膝元の人事行政の一絲紊れざる統制卽ち內輪の一致和合の方が先決問題かと存じます。國民は自由主義とか統制主義とか官僚政治とか將又政黨政治とかの名稱よりも實質本位を以て其の良否に關心を持つこと大なりと信じます。

昔し鼎の輕重を問ふと云ふことを申しましたが、支那に於て大臣となり諸政を燮理する時、鼎の中に五種の物を入れて煑て、之を神に供へることが例

となつて居りますが、是は政治上に於て斯くの如く種々のものを一緒に煑るが如く調和宜しきを得せしめますとて神に誓を立てることであつて、其の器の鼎の足が三本ゆゑに其の何れの一本にても損せば顚倒するから、足下安立せざることになり、調和宜しきを行ふ政治が出來ぬ故に是は少しく附會のようにも聞えますが、土臺のぐらつくこと卽ち一致協力を缺ぐことを其の力の輕重とて云々し、協力を統率する力如何を之を鼎の輕重を問ふと云ふことになつたと云ふ說があります。要するに國內の一致和協の團結力に依り中心は不動にして金鐵の如く鞏固なれよ足は確かと地に着けよと申す次第であります。所謂「病は內に在り」でありますから一致和協は最も大切にして深く猛省を要する次第であります。

又法案政策に協賛を與ふる議員は條件として第一に質の良好眞摯なること、第二に理想を實現するには數が力でありますから正しき國民總意の代表

者として其の數の多きことを要するのであります。夫れ故に其の階段として茲に選擧肅正の清き一票を叫ばるゝ所以も茲に在りと存じますが、是は畢竟何れの場合に於ても根本は平生の「誠」の現れでなくばならぬと深く信ずる次第であります。何人も心の底に迫力ある強き「誠」さへあれば、辯舌や手段の巧拙の如きは第二、第三段であり何んぞ意とするに足らんやであります。若し「誠」の上に手段の巧妙なるものあれば夫れは鬼に金棒であり、之に反し手段のみ巧妙にして「誠」無きものは、金棒のみあつて鬼無きに等しきものと存じます。彼の外交の如きも結局最後のところは口の人よりも肚の確つかりとしたる人に在りと云ふことに歸着致します。彼の外務大臣として名聲嘖々たりし故小村壽太郎侯の如きは肚の外交家なりしと言はれて居ります。學問でも鼻の先にブラついたり頭の邊のみに走つたりするものは片々と浮いて居ります。不動の眞理が深く強く肚に藏つた學問でなければ眞に生きたものとは言へませぬ。人と人との協力も肚と肚との結合で成るものであります。大事を決せんとせば先方の鼻息を窺ふが如きことなく眞に肚の確かりと据つた人たるを要し、殊に今時に於て其必要を痛感するのであります。而して肚そのものは畢竟「誠」に安立するものでなければならぬと深く信じるものであります。

「誠」と云ひ道德と云ふも、私は溫柔羊の如き社會を造れ或は仙人の世界を造れとは申しませぬ。熱あり勇氣あり力ある「誠」を以て積極的に現世に向つて活動せよ、此の活きた世に活動せんとするには「誠」が第一の資本であると唱ふるのであります。彼の一種の所謂宗教信者と云ふ風に一方に捉はれずして、信仰心を以て迷はず謬らず力强く清新の氣分を以て、希望を現世の日々に顯はせよと言ふのであつて、所謂「良心を手腕に活かせ」と言ふのであります。安んじて死に行く力にあらずして、安んじて生き得る力でなく

てはなりませぬ。更に申せば「誠」を根本とした る聰明を以て道ある道に向つて大活躍せよと言ふのであります。私は精神的にも物質的にも將又算盤的にも何れの一方にも偏せず「物心依一」で進んで行きたいものと念願して居ります。之が私の實業界に向つて提唱する「誠」であります。

抑〻社會は自然の產物であり生きものである以上は、平々坦々と仙鄕の武陵桃源を夢見て居る譯には參りませぬ。雨もあれば嵐もある、山もあれば川もある所謂人生の行路崎嶇多し、且つ社會は競爭場裡であり、優勝劣敗は免れざる處であります。而して之れあるが爲に實は進步するのであります。されば自由競爭は寧ろ文明進步の母であります。併しながら人に迷惑を懸け不義を敢てしてまでの競爭を意味するにあらず、不合理不正の競爭は絕對に不可でありますから、茲に統制の必要を生ずるのであります。尤も自由も統制も共に自然の限界があります。兎に角根本としては「誠」を離れざる競爭を以てせざるべからず。「誠」を離れたる競爭は、後軍の續かざる戰爭の如きもので永續性がありません。茲に於て平素何人も先づ他人に先だつて自己を全觀し己れ自ら「誠」を實行するの心掛あるを必要と致します。各自の一人一人が他に先んじて「誠」を行へば、則ち一人の「誠」は萬人の「誠」となり、茲に「誠」の人「誠」の社會「誠」の世界を造り得るのであります。常に「誠」を體し一步心を高きに移さんか畢生を通じ未來永劫まで到底金錢に換へ難き愉快を感じ、且つ尊き幸福を招來するものと信じます。安心立命の眞義も茲に存するのであります。「足るを知るものは常に富む」と申しますが私は「誠を知るものは常に幸福なり」と申したいのであります。人として尊き所以は心であり、人格であり「誠」であつて金や手腕は從たるものであります。尤も世の中は直線のみでは涉れません。曾ては「善」の押賣りをなさんとして却つて失敗したる大都市の人格市長あり、固より宇宙萬有皆陰

陽あり表裏あり世に屈伸の理あり、一本調子にては失敗を招きます。此の故に時に清濁併せ呑み又緩急宜しきを得るの必要がありますが、併し餘りにも近時の如く誤つて曲線のみを以て、眼先の世を渉らんとする人の多きを甚だ遺憾とするものであります。總ての現象（相）は心の表現でありまして心は必ず色に現はれ事に發す。それ故に私は其の一貫したる根本義として「誠」の實行の必要を申述べたる次第であります。敢て自重自覺を乞ふ所以であります。

○裏面より見たる誠

ある人曰く更に靜かに觀ずれば我々は變轉極りなき現象の活きたる此の宇宙に生れ、活きたる人間として晴雨不定の此の天地間を歩む以上は、世の表裏を洞察せず單に「誠」の一點張で進むことは出來ませぬ。さればとて不誠實を働いても宜しいと速了せらるゝことは無論本意ではありませんが、現に歐米の天地は如何、表に全世界の平和と全人類の幸福を唱ふるも其の裏面を眺むれば弱肉强食の有様で何處に「誠」が存在してありませうかと言ひます。是も一應尤ものことゝ存じます。然らば如何にせんかと言ふに、我々は只爆彈が降り來るには之を防禦し之に對抗する用意を必要とすと云ふに過ぎません。抑〻季節に春夏秋冬の同じからざるものあるが如く人には悲喜劇あり善惡貧富の別あり、山河一體ならざるが如く國に强弱あり、版圖の大小あり、平ならんと欲して平なる能はず。誰も彼もが一色一樣ならず、年が年中四海波靜かに春風駘蕩の豐けさに惠まれ得ぬものであります。今日の國際聯盟や軍縮會議は眞に平和の正義に出發せるか。又イタリー對エチオピア國問題にしても英佛は正義人道に發する仲裁であるか。自國の利害を根柢としたる御都合に依る卑劣なる自己的協定なるか。エ國は恰も强國の俎上の肉と等しき感を禁

じ得ない。世界の正義人類の幸福は何處に求むべきでありませう。茲に於て乎天道是耶非耶の嘆聲も無理からぬことゝ存じます。併し我々は宜しく攻めず戰はず正義と「誠」との最大武器を以て其の頑迷獸慾の蒙を啓き其の不信不法を膺懲すべきであると存じます。皇道政策は須らく覇道政策を征服すべきであります。

國際聯盟脱退の御詔書中に

信を國際に篤くし大義を宇内に發揚すべし

と御示しになつて居ります。國際聯盟は元々勝手のものにして決して大義を以て世界の平和を計劃したるものでありませぬから、根本に權威なく無力無主義にして今日は聯盟自ら行詰つて居る自殺の狀態であります。是れ畢竟「誠」なきが爲であります。

凡そ不自然のもの卽ち「誠」に反したるものは永き間には天の勸善懲惡の

制裁もあれば又自然の調節もあり運命の循環もあり、事實としては獨逸又は蘇聯の虛を窺ふものもあるが故に結局思ふ樣に勝手自儘はなし得られませぬ。尙一例を申せば、彼のナポレオンよりも以上に廣大なる世界の土地を征畧せる豪傑ヂンキスカンも今や其の領土の片影だも見ざる有樣ではありませんか。是は天の裁きと申すべきであつて、卽ち彼等は一時の風雲に乘ずる非道なる自我的の英傑にして眞の「誠」を持せず精神的文明の中に認め得ざる缺點があるから永續しないのであります。現に米國のハウス大佐、英國の前藏相スノーデンの如きは「世界各國の領土及資源が不公平である爲に日獨伊の如きは膨脹又は爆發するは止むを得ぬから國際新平和案として大國は宜しく資源の均衡を謀る一策として殖民地再分配を考慮すべきなり」と聲明して居ります。之は刻下の實際的生存權問題であり正論の勃興なりとして敬聽を禁じ得ませぬ。英國の如きは餘りにも世界到る處に多くの殖民地を有する故

に常に絶えず他國と利害の衝突を招きます。大國よ眞に世界平和の爲に宜しく優越感を捨つべきなりと存じます。歐洲大戰後オースタリーは我々は「大腦のみ殘されたる國にして消化器がなく四肢がもぎ取られて居つて如何にして生存が出來るか」と云ひ。隣りのハンガリーは「我々は豚の尻ばかりを殘された」と云ひ。夫れ〴〵不平悲憤を洩らして居る狀態であり、況んやドイツの如きは推して知るべしであります。併し時の勢は潮の如く之に逆ふて利あらず、豫め之を測知して利用すべきであると存じます。

どうも世の中が餘りに逆行せるときには一時は人が天に勝ち之を裏から見ると「誠」が影薄く實現の效果なく善いのか惡いのか、聊か頭が昏迷するが如き感なきにあらざるも、更に之を大局より見れば矢張り何等迷ふことなく、當然「誠」に歸着裁斷せらるゝものであります。卽ち天定つて人に勝つのであります。茲に於て詮ずる處長き期間に於ては正義を以て奮鬪努力以て彌〻益〻「誠」の眞理大道に勇往邁進するの外なしとの結論に落つることになるのであります。要するに物に本末あり事に終始あり一時的の現象と永久の結果とに道程の差異あることを知らば、縱令其の見方に就ては表裏あるとも自然の法則は「誠」であり「誠」は泰山不動であるから徒らに白雲の去來に迷ふこと勿れであります。

昔、山崎闇齋先生は其の門弟に問ふて曰く　我々は斯く孔孟の學を奉ずるものであるが、今若し孔孟が軍を帥ゐて我國を襲ひ來らば如何にするかと門弟啞然として答ふる所を知らず。そこで先生曰く孔孟若し襲ひ來らば我等は直ちに之と戰ひ孔孟を或は虜にし或は斬つて捨てんのみ是れ孔孟の學なりと申されたのであります。流石は先生は易學に厚く天地自然を基礎とし、穩健にして我國體の中樞を誤らず常に大義に立脚したる碩儒であると存じます。學問の活用夫れ斯の如し「誠」の理も亦斯く活用すべきであると存じます。

單に從順が必ずしも「誠」にあらず。況んや歐米を對手とするに於てをやであります。茲に和戰兩樣の心の準備が必要とする所以であります。

○聖德太子の誠

內治外交に就て最も御苦心あらせられ又「誠」の圓滿なる聖者たる聖德太子のことを一言申上げます。

抑〻聖德太子は日本文化の開祖と仰ぐべく實生活と信仰、敎育と宗敎、神道と儒敎と佛敎を渾然綜合歸一し且實踐せられたる方でありまして卽ち思想に政治に法律に外交に藝術に建築に社會事業に殖產興業等凡ゆる方面に涉り日本の平和と文化の發達とを圖るべく建國的努力を以て實行せられたる不世出の至聖であります。恐らく今日の日本文化發展の基を開く聖祖としては之を遠きに求めて太子に及ぶものなく、八面玲瓏圓滿無礙の德の方であり「誠」の方であり後世に至る程益〻光つて參る所以と存じます。大阪に於ける太子の功績は社會事業でありましたが、夫れが全國に擴大せらるゝに至りました。太子は日の出づる我國を背負ふて日の沒する大國と對立し、又內治上多年の情弊芟除に力を致され內治外交共に頗る御苦心あらせられた崇高の方でありまして決して佛法の開發者と云ふに止まりません。卽ち內に多年蟠屈せる閥族を掃蕩し外に朝鮮に於ける我國の勢力失墜を挽回すべく銳意力を傾倒されたことは割合に傳はつて居りませぬけれども是は實に容易ならざる二大功績であると存じます。

彼の十七憲法は德治國其の儘の憲法にして皇法の規模であり國體明徵の鐵塔であり庶政肅正の規範として有名なるものであります。第一條には和を以て貴しと爲し、第二條には篤く三寶を敬せよとありますが、三寶とは佛、法僧のことにして是は佛の三寶にあらずして國家の三寶を示されたるもの、卽

ち太子は宗教なる佛法の上に神祇を置かれて居り、單に宗教の佛を信ぜよとはお示しになつて居りませぬ。國家の三寶を敬することが萬國の極宗卽ち和の根源であると仰せられたのであります。三寶は更に大きく言へば天地人を指したるものとも謂ふべく、又仁義禮智信の五常にも當り、歸するところ本體は日本精神を意味し自然の正法卽ち「誠」を指されたものと存じます。我國の敬神崇祖は宗教の上に超然と立つて居るものと存じます。明治維新の大政治家は特に太子に崇拜歸依せられたそうであります。今や非常時に際し不出世の太子を想ふや洵に切なるものありと存じます。

特に申上げたきことは歷代の　天皇には其の御卽位式に當り畏れ多くも御卽位式の御召物と同一のものを御調製に相成り、其の都度京都太秦の廣隆寺に安置せらるゝ聖德太子の御像に更衣御着せ付けに相成る御嘉例の一事を以て見ましても、如何に太子に對し皇室の御信仰深きかを拜察するに餘りありと存じます。尙又　皇太后陛下には特に他に類のない御鄭重なる御態度を以てこの廣隆寺の太子樣を御禮拜に相成つた趣を洩れ伺つて居ります。以上を以て見ましても太子は終始「誠」の一貫したる德の大聖でゐらせられたことこそゞろに感を深くする次第であります。

序ながら申上げますが、太子は物部を御征伐になつても御自身の功となさらず四天王の御蔭なりとせられて居ります。織田信長の如き豪宕なる傑人にしても常に功は部下に讓られ、又山岡鐵舟の如きは自分の功を語らず皆是他人の功業にして天の賜なりと申されて居ります。凡そ人に長たるものは萬事皆斯くの如きものかなと深く思ひ當るものがあります。

○　我國體より見たる國民の誠

近來歐米に於ても個人主義や自由主義の文明が行詰りとなつて、遂にファ

ツシヨやナチスが現れ、國家社會至上主義とでも申しますか、稍〻東洋式の眞似をして來ましたが、併し國の成立の根本的に異れる我皇國のそれには到底及ばぬこと、存じます。然るにファツシヨ政治を我國に移さんとする人ありとかの噂があるやうでありますが、之は皇道政治に反するものと斷ぜざるを得ません。世には自由主義、個人主義、資本主義、統制主義、國家主義、帝國主義、共産主義、社會主義、民主主義曰く何々主義と種々思想上にも經濟上にも對立的に申しますけれども、我神州に於ては萬古を通じて日本精神さへ確固に守れば必ずしも何々主義を立つるを要せず、國には夫れ〳〵歴史沿革あり氣候風土の異なるが如く、例へば彼の國の煉瓦造の家屋が必ずしも我が國に適するにあらず、米食を廢して肉食に變更する能はざるが如しでありまして、決して歐米に心醉すべからず又必ずしも之を排付するに及ばず自重自制して孰れにも極端に傾くべからず須らく中を執りて大本たる重心に安立すべきものなりと存じます。石は石たり木は木たり電氣は電氣であつて是等を合せて調和利用して最終の目的たる物を成すのであります。故に何處までも自主本領は失はず彼是れ取捨して要は調節宜しきを得るに在り。之が卽ち政治の要道と存じます。徒らに血氣に躍る青年を煽動し思想上無責任にも安價の興奮を激成せしむるが如きは危險にして深く猛省せざるべからずと考へます。

日本には儒教や佛教が入り來り、維新後にはキリスト教や、ギリシヤ風の文明が這入つて參りましたが、如何なる制度文物、如何なる科學宗教が入り來るとも、日本人は抱擁力があり選擇力があり、能く長を採り短を去りて之を咀嚼同化し共通點を效果的に利用し日本精神を中心として、之に右の外教を周圍の補修と爲し、更に超進力を以て日本的優良化する所に日本の確乎たる特異の眞髓が存するのであります。例へば儒教を入れても革命主義は斷じ

て採らず、佛教を入れても小乘思想を採らず、國家鎭護の佛法となり、更に皇國本位の佛法となり、或は密教が入りても陰陽教は採らず、歐米の說を入れても民約憲法は採らず、欽定憲法となりて形は法治國なるも、其の精神は古代其の儘の德本にして萬國無比、千古不磨の大典となれるが如しであります。畢竟日本は惟神の國、至誠の一貫したる國であるからであります。

皇太后陛下の御製に

異國のいかなる教入り來ても
こかすがやがて大御國振

とあります。皇威赫々國運隆々たること夫れ所以あるかなであります。

前に申述べました如く聖德太子が佛法を輸入せらるゝ時に、既に其の根基を確乎と樹て日本固有の精神を以て日本佛法とせられて居ります。

佛子にして國士たり立正安國の主唱者たる日蓮聖人は「王佛一乘、世界統一」と疾呼し、又弘道館記には「恭惟、上古神聖、立極垂統、照臨六合、統御宇內、寶祚以之無窮、國體以之尊嚴」とありまして國體を簡明に說かれて居ります。外國には國體と云ふ文字さへも未だ無いさうであります。又惟神の國と申しても外國には其の意義が解せられぬでありませう。以て我國體の精華が、如何に日本獨特の光輝あるものであつて、到底外國の例を以て律すべきにあらざるかを知るべきであります。

我が日本は皇統連綿たる萬世一系の天皇を中心とする尊嚴冒すべからざる國體であつて、所謂「義は君臣、情は父子」と謂ふべき一君萬民の美はしき世界無比の國であり、敬神崇祖—忠孝—「誠」を以て立つて居る他に眞似の出來ない幸福なる獨特の國柄であります。

明治天皇の御製に

ここしへに民安かれと祈るなる
我が世をまもれ伊勢のおほかみ

いかに以て敬神崇祖の御念が厚く又民を愛しさせ賜ふ御深慮の程も洵に有り難く拜察致されます。

此の頃喧しき國體明徴は申すまでもありませんが、併し學者の天皇機關説が、三十年來幾千幾萬の學徒に教へられ來つて居つても、我國體に關する國民全般の根本信念は、儼乎として微動だも致しませぬのは抑〻何んの證左でありませうか。外國文明を輸入しても基礎眞髄の動かざる例は、恰も果實が椄木に依りて良果を生ずる事があるも、其の椄木の根基となる眞髄の如く其の血の流は實に偉大なる不變の力があるのであります。而も其の眞髄には三種の神器の德卽ち智仁勇の三德の皇化が洽く潤つて居るものと存じます。皇

道は德を以て治めせしめられ、覇道の如く力を以て治むるのとは異つて居ります。何んと申しても日本は根本に德治國であります。卽ち日本は上に萬世一系の皇室を戴き、其の眞髄なり「誠」なりの精神が一貫して流れて居るものであります。日本人は、祖宗より受けたる遺訓精神を奉じて、未だ曾て中斷せず變化せず、其の儘生活原理として繼承して來て居ります。日本國民は此の意義を以て生活し生存し、鄕土愛となり祖國愛となり、又家族觀念を持して國家を擁護して居るものと信じます。

君民一體、忠孝一致、德治の溫乎たる國容は是れ卽ち我國の萬邦に冠たる所以にして牢乎として動かず、彼の國民の都合上にてカイゼルを廢したる國家とは截然として比較になりませぬ。彼の國家學者のスタイン博士も「世界中理想の國家は唯日本あるのみ」と激賞して居らるゝ通り日本の國家は至上にして外國の國家と淵源實質に於て雲泥の差があります。日本は金甌無缺の

國家であります。皇室を中心として君民一體となり毫も議論を挾むの餘地なく超然統一せられて居る國であります。一朝事あれば日の丸の御旗の下に上下一心同體となり、宮城の前に伏し拜みては眞に心から敬虔感激の涙を溢ぼし、紙幣が不兌換となつても、菊の御紋章には絶對信賴して居る國民であります。是は宇内萬邦に匹儔なき處にして一血統一人種の集合體であるといふ關係もありませう。尤も時に異人種の混入ありしも我國は古來抱擁心の仁德を以て純日本的に順化せしめられて居ります。亦實に往古より先天的に靈妙不可思議の血性を受け繼いだる特異獨歩の國民であるが爲めと存じます。外國が日本を恐るゝ唯一のものは獨り日本精神に對してのみであります。若し强いて我國民性の缺點を擧ぐれば、經濟思想の缺けて居つたことかと存じますが、夫れも近年著しく發展し、殊に他に賴らず漸く獨立的に進んで來たことは最も喜ばしき傾向と存じて居ります。而して近來我商品の外國に躍進するに至りたるは、技術の進歩は勿論又爲替相場の關係もありますけれども、一には我商人の自覺に依り從來批難されたる商品の見本と相違せる粗製等の不信用を恢復し大いに信用の增進したる結果なりと存じます。併し英國人等より之を見ればまだ不充分なりと申して居るかも知れません。

前に申しました通り商業は正道の上に立ちて有無相通じ、信用を以て利益を得るものなれば、どうぞ此の上は信用を第一とし同士打をせず廣く世界に向つて邁進し、殊に我大阪の如きは元來上方文化として空を排し實を求むる自由獨立の處なれば其の本義の利害上よりしても大我の利を利として今一段と道德心と社會奉仕觀念とを進め、以て我國唯一の大商工都市として愈〻高く愈〻深く名實共に美はしく備はり雄然重きを爲すに至りたいものと念じて居ります。動〻もすれば大阪は自己中心主義或は物質主義の集合體かの如く解せられた時代もありましたが、最早今日の大阪は昔日の大阪にあらず、而

も「誠」を此の大阪の實業界よりして率先實行して之を天下に呼號すること
は即ち一は大大阪の品位を高め、一は明朗潑溂たる大大阪たらしめ名實兼ね
備はり以て「誠」に對する範を全國に示す上に最も有効にして、お互に心强
く欣快のこと、存じます。更に多きを求むれば大國策として「誠」を基調と
し國を擧げての對外大經濟策を講じたいものと存じます。大阪は維新後打擊
を受けて一時衰微に傾きしもそれが今日の如き隆昌に回復せしは何等政府の
力を賴まず全く獨立奮鬪の結果であります。英米の如く外國を我領土同樣に
化せしむるには必ずしも武力を用ゐずとも他に國策遂行の道もあること、存
じます。それはそれとして元來獨り商業上のみならず我國の內政外交共に目
前の自己本位の小策を弄せず廣く社會に寄與する大精神を以て、信義を推し
立て、進むことが終局に於ける自他共同の勝利なりと考へます。信義は家產
の最も堅固なる柱であり國の礎であります。所謂「信は萬事の本」にして信
即ち「誠」であり「誠」は最上の道德であります。畢竟眞の精神—「誠」は
敬、愛、信の三相の作用に歸着するものと存じます。

文武天皇の詔勅に

國民道德の根本は淸く淨く直き「誠」の心を以て仕ふべし

と仰せられて御座います。

彼の教育勅語は、固より教育者に對してのみにあらず、汎く一般の臣民に
對し、建國の大精神と國民道德の大本を御示しになつたものでありますか
ら、單に之を學校で教師や學生が儀式的に奉讀するに止めず、億兆齊しく仰
ぐ一國一家の君、忠孝一心、父子一體の大精神を奉體し日夕之を躬行しなけ
ればならぬこと、存じます。私は今年鄕里や現住の小學校の兒童數千人に「教
育勅語のお話」の册子を配付致しましたが、これも兒童を通じて父兄に勅語
の御聖旨を實行して頂きたい本意に外ならないからであります。

日本國民は陛下の赤子であることの一事に至ては、恐らく何人も異論なきところにして今更申すに及ばずと存じます。

明治天皇の明治元年三月の御宸翰に

天下億兆、一人も其處を得ざる時は、皆朕が罪なれば今日の事、朕自身骨を勞し、心志を苦しめ、艱難の先に立ち、古烈聖盡させ給ひし蹤を履み、治蹟を勤めてこそ、始めて天職を奉じて、億兆の君たる所に背かざるべし。

この詔は正しく大御親心の發露として皇國政治の大本を御示しに相成つて居るのであります。更に

明治天皇の御製に

罪あらばわれを咎めよ天津神
民はわが身の生みし子なれば

と此の大御心を以て常に萬民に臨ませられて在らせたのであります。

今上天皇陛下御即位式の勅語に

皇祖皇宗國を建て民に臨むや、國を以て家と爲し、民を視ること子の如し、烈聖相承けて仁恕の化下に洽く兆民相率ゐて敬忠の俗上に奉じ、上下感孚し、君民體を一にす。是れ我が國體の精華にして當に天地と竝び存するところなり。

と、即ち日本國體の根本を御垂示になつたもので更に「國を以て家と爲し、民を視ること子の如し」と仰せられて居ります。かやうな國柄が世界中何處を捜してありませうか。斯る仁慈の君主を戴く國は唯夫れ我日本あるのみであります。この幸福の國に生れたるものにして天下萬民何人もこの御稜威御仁德に感激せざるものあらんやであります。茲に我々國民は大義名分を誤らず、一に「誠」を致し以て天壤無窮の皇運を扶翼し奉るの外はありませぬ。

「誠」は善の首德にして人心の根本でありますから、前にも申述べた如く特に學校教育、家庭教育、社會教育に對し萬民協力し一層の熱誠を實にせんことを望んで止まない所であります。

附け加へて申上げますが、新聞は社會の木鐸にして國家國民の公益を謀り、文化の開發教化の指導上に偉大なる力を有するものなれば、全國の新聞が啻に讀者の求むる興味に迎合する營業政策にのみ馳せず指導精神を以て所謂三面記事の欄を割愛して毎日必ず「教育」の欄を設け教育に關する論說は勿論、例へば信州伊那郡の農學校の勤勞教育振り或は農村の勞働振り若くは自治獨立の實狀なり、岩手縣下の勞働更生振りなり、更に獨逸又は丁抹の勤勞振の實況等を掲げ或は內外個人の善行美風を推奬する等各方面よりして熱心に社會善導に力を注がるゝならば、社會人心の刷新上大なる寄與なりと考へて居ります。又雜誌其の他の刊行物の取締は勿論通俗教育上彼の映畫の取締乃至善用も固より緊要事と存じます。是等手近かなる實際に卽して改善指導すべきもの多々ありと存じます。敢て其の筋の注意活動を望んで止まざる次第であります。

○結　論

要するに我人共に眞に「誠」の道に向つて毅然として邁進し、大いに日本精神を發揮し教育勅語の聖旨を奉體實行するならば、こゝに人心の安定を得て、平和の基礎を造り、訴訟司獄等の司法事務は僅少となり、行政上の無駄は申すまでもなく大いに省き得られ、自然陸海軍の費用も減ずるに至りませうし、商業は繁昌となり、產業は振興し、歲出は減少して反對に歲入は大いに增加し、赤字公債克服の如きも問題でないと存じます。こゝに國民の生活も安定し、人文は正しく進展し、天下は泰平となり、國家の隆昌期して待つ

べきなりと信じます。而して此の「誠」は獨り我邦のみならず、更に之を萬邦に及ぼすならば、軍縮會議も、世界經濟會議も圓滿に解決し、國際聯盟も凡ゆる國際會議も權威を保ち、世界平和は完全に成立し、如何に天地が明朗化し、如何に世界が美化することゝなり、如何に人類が幸福に浴することでありませうか。私は理想として眞善眞美の萬國共榮の康寧和樂の世界を冀ふものであります。縱令先進國と雖、口のみ世界の平和の美名を假用し其の實、自國本位のみに偏重して他國は軍縮せよ我は優越の軍備を保たんとして讓らず、正義人道に反し自我々々へと進み毫も自ら反省することなく、又經濟上には需要供給の原理に逆行し、水は高きより低きに向つて流るゝの自然の原則を外れ、品質の良否價格の高低を無視し、關稅を高くし又は輸入制限を設けて自由通商を妨げ、中正の大本に逆行し、產業の發達を阻害し、或は人種別を口實として移民を阻止し、不平等を維れ事とし、隣保相愛の實なく共存共榮は名のみにして眞に世界人類の幸福、安寧秩序が保たれないとすれば、獨逸の哲人シペングラーの豫言せる如く、「近代西洋文明は崩壞して再び原始的生活に復歸するも時の問題なり」と言へるは必ずしも夢想でないと考へます。現にハロルド、ベグビーは歐洲大戰を豫言し之が適中したる先例もあります。今度英國の總理大臣となりましたボールドウインは、一昨年あたりに「歐洲大陸は全るで瘋癲病院のやうなものである」と言つて居つた通り、少しく離れて英國より冷然として之を見れば、左樣な感じをなすのも當然でありませうが、之は獨り大陸のみの問題ではありませぬ。果して今後の風雲如何でありませうか。古諺に「天は復へすを好む」と云へることがあります。これは白色人種とか有色人種とかの問題にあらずして實に人間の重大問題であり自然循環の原理であります。

道は一にして中外の別なく、猶日月は天下の日月にして一國の專有すべき

ものにあらずと云へるが如しであります。實に「誠」は古今東西を通じて人間の基礎にして宇宙の眞理であります。元來日本精神は獨り日本のみに限ると云ふが如き小なるものではありませぬ。況んや今日の日本は日本の日本にあらず世界の日本でありとすれば、宜しく先づ我神州よりして世界萬邦に向つて正義の下に大いに皇道精神を鼓吹宣揚し、洽く「誠」宗の信者たらしむべく指導感化すべきであると存じます。但し空元氣は禁物であり沈着愼重を要するは勿論であります。殊に外國に皇威を示すには內に協力一致の實を以てせざるべからざることは是亦當然であります。萬物は天地の和合に依つて化育することは自然の理であります。こゝに大局に立脚して大國民の實質を充さんことを要望する所以であります。元來日本の智は廣くして德を含み、西洋の智は狹くして德を含みませぬ。若し學びを進め智を磨きても情を鍛へざるときは人間が分裂して片輪ものとなります。今日は智ありて慧なく情なく四海兄弟の實何處にありやと問ひたいのであります。

誠ほど世に有がたき事はなし

誠一つで四海兄弟

國家は最高の道德的存在なりと申しますが若しも世界の何れの國にても「誠」に反し、道德に背き國際信義を無視し、譎詐欺瞞巧辭を弄し功利略奪を事とするものあらば、共存共榮の本義に反し相互破壞にして所謂自ら天に向つて唾するものと謂ふべく、天は此の「誠」なく宇宙の眞理に背くものは只惟れ亡ぼさんのみであります。歐洲大戰爭は明かに之を敎えて居るのではありませぬか。茲に於て「誠」の上より觀れば皇道を中外に闡明し世界を統一し宇宙一界に巍然と君臨まします方は唯夫れ我日本の　天皇陛下の外にないと信じます。明治天皇は維新の詔勅に於て八紘一宇の理想を明示し給ふて在らせられます。卽ち皇德四海に光被せんとする有難き御趣旨と伺はれます。東

海、國あり、大日本といふ。彼の陽に平和を唱ふるも、陰に銃を列べ劍を磨いて切々相迫るの心底は、天知る人知る吾知ると謂ふべきであります。隱すより顯はるゝはなし、畢竟人は落つる處に落ち、善因善果、惡因惡果は來たる時に來たるものなりとは一點の疑はありません。皆樣如何でありませうか、斯の如き情勢にして列國は何時同じませうか、何時和しませうか、經濟的武裝は何時撤廢せらるゝでありませうか、此の世は白人の世界ではありませぬ。拔本塞源の道如何。

嗟、世界を左右する英米の二大國よ、眞に世界平和、國際道義の爲に假面を脫ぎ、詭辯を棄て、心を洗ひ、須らく正義人道の上に立つべきなりと露骨に高く叫びたいのであります。殊に英國民は個人としては世界一の品位高く常識に富みたる好紳士でありますけれども、一度び國際問題に移らんか、國を擧げて不言の裡に着々自國本位の劃策を進行し、加之第三國の蔭に潛みて巧に之を操縱する等其の老獪なること洵に油斷ならざる恐るべき國民にして惜い哉此の點は日本精神のみならず世界精神とも相反し甚だ心服し難き處にして英國は勿論世界正義の爲に最も遺憾とする處であります。但し彼の靜中の動は兎角我等動中の空動に陷り易きものゝ取つて以て大いに戒鑑となすべき點なりと存じます。又米國と雖世界平和を唱へ軍縮を口にするも其の實、軍國主義に進みつゝあり、況んやソヴイエツト聯邦に於てをやであります。そこで已むなく國防强化論が起らざるを得んのであります。但し終局の目的は國民生活の安定を期するに外ない次第にして、將來の安否は畢竟國民の決意如何に存することであります。

私は全國の國民一同が毎朝合掌默拜し、或は神前に「誠」を祈願し、或は店頭又は居間其他隨處に常に「誠」なる文字を揭げて、之に違背せざるやうに念とすることは無論必要であり、又禮卽ち「誠」であることは存じますが、

併し「誠」なるものは、唯表面だけの形にて精神が事實に現はれなければ固より未だ以て眞の根柢に觸れたものとは言へないのみならず甚だ力弱きものであります。「事に卽して眞」と云ふことがありますが先づ幽顯を全觀し自己を全觀し、我を知り止まるを知り足るを知り己れに打ち克ちて私を去り、晝夜の別なく行住坐臥悉く事に卽して「誠」が琴線に觸れ熱となりて顯はれ、其の姿は恰も富士山の如く「晴れてよし曇りてもよし富士の山もこの姿はかわらざりけり」と云へる通り何時何れの視角より見ても、常に同一にして正しく而も秀麗の實あり、而して其の至誠が所謂天に通ずるものでなければならぬと存じます。

明治天皇の御製に

目に見えぬ神の心に通ふこそ
人の心の誠なりけれ

卽ち至誠通神を仰せられて居ります。運は天よりも降れば地よりも湧く、併し蒔かぬ種は生えませぬ。卽ち禍福は天にあらず地にあらず自ら招くのであります。神は自らを助け自らを守るものを守つて下さるものでありまして、自らを守らざるものは神も亦守つて下さらぬものであります。彼の天祐神助は至誠より生れ至誠より授かる賜であります。

「誠」は天の道なり。之を「誠」にするは人の道なり。卽ち人は努力に依つて「誠」の道を行ひ天の道に近づくの謂にして、之が人間本來の性であり行くべき道であり任務である。是れ人間の至高至大なる處にして禽獸と異なる所以であります。されば人として「誠」の外に道なく性なく德なし。此の天意使命に背くものは必ず天罰神罰を免れざるものであります。彼の「俯仰天地に愧ぢず」と威張つて見ても、眞の「誠」の實がなければ何んの役にも立ちません。又「千萬人と雖吾往かん」の壯語も「誠」あつての勇氣であり

ます。自尊心も「誠」あつて始めて光るのであります。彼の精神作興と謂ひ質實剛健と謂ふも皆「誠」より生るゝものであります。其の「誠」とは第一に私心を去ることであります。私心を去れば則ち正しく明るい眞心となり努力躍進することゝなります。沒我の心境に入れば安心が出來て感謝の念を生じ歡喜となり永遠の希望に滿ち前途洋々として眞に明るき「誠」の心となります。されば「誠」は人を動かし鬼神を泣かしめ金石を透し天地をも貫きます。一個人と云はず、一國と云はず、世界萬國と云はず、古今を通じて文に武に、一として「誠」の離るべからざることは如上繰り返して申述べた通りでありまして、政治家も實業家も教育家も宗教家も將又社會事業家も眞實に「誠」より溢れ出でたる力强き道德生活に生きんことを熱望して止まざる處であります。庶政一新固より必要でありますが、人心一新は更に先行的に緊要なりと存じます。上に立つものは宜しく治國の大本たる德性の涵養に向つて第一に熱心に唱道示唆すべきであると考へます。この點不徹底にして甚だ遺憾に感ぜられます。

以上私が多岐に渉つて長々と申述べましたのも、畢竟人間の第一義は「誠」にして如何に知識及物質の文明が進歩しましても人として「誠」を離れては生くるものではありません。「誠」は凡ゆる人事問題の鍵であり、終始現實に息の通つた活きた「誠」が必要であります。今日實際世人が餘りにも人格を目標とせず心の修養を第二とし、專ら唯金唯物に走り虛榮に迷ひ輕佻以て身を誤り世を毒するもの多きを憂ひ、此の時弊に對し殊に實業界に向つて「誠」の力と「誠」の必要とを叫んだ次第であります。而して是れ實に私の不動の信仰であります。

我國に於ては、日本精神—「誠」—を以て肇國以來未だ曾て渝ゆることなき國體の精華を尊重し、擧國一致至誠を堅持し、澎湃たる興國の意氣を以て不

動の國是に向つて日々新たに邁進し、永久の平和と國利民福とを圖り、以て春風駘蕩櫻の日本の隆々と彌榮えに榮えんことを皆樣と共に謹みて祈願して止まざる處であります。

本年は恰も大楠公殉節六百年、又二宮尊德先生の八十年の記念の年に當り、偶々此の「誠」に就てお話を致しましたことは、衷心窃かに喜びと致す處であります。私が本年さゝやかでありまするが大楠公の銅像を、某々二小學校の校庭に建設することゝなり、其の他小學教育奬勵事業に聊か寄與せることも、畢竟昨年四月賜はりました勅語に「國民道德を振作し以て國運の隆盛を致すは其の淵源するところ實に小學教育にあり」と仰せられました通り、國民教育の基調は小學教育に在りとの考よりして、深く期するところがある次第であります。

如上私が敢て大膽を顧みず直言する所以のものは、熟々世上實際の出來事の由つて來るところを探究するに、事大小となく必ず各方面に於て多少とも夫々「德」を缺き「誠」を缺きて天意に背反し、不純なる無理が存することを痛感するからであります。故に上下貴賤貧富の別なく文武百官政黨有產階級有識者其の他衆庶に至るまで共々に、道義立國の大精神に基き全幅の「誠」を捧げ、常に自己を深く反省して先づ己を直ふし、中正を執りて矯激を戒め、軌道を履みて秩序を重んじ、大勢に順應すると共に本末を誤らず、常時教育勅語を奉體して國憲を重んじ義務に從ひ、各其の本分を守りて業を勵み、浮華を戒め質實を尊び、私心を挾まず公益を圖り、小異を棄てゝ大同に就き、正義公道に基きて謙讓以て己を律し、渾然たる融合疏通を謀りて克く和衷協同し、一德一心眞に億兆心を一にして國家社會に盡すを以て刻下の急務なりと信ずるものであります。殊に現今非常時に處するの要諦は協力一致して一貫したる「誠」を根基とし渾身の心、渾身の力を以て不動の國策を熟

慮斷行するの外何物もなしと確信し、茲に強く至誠を高唱する所以であります。「誠」は天の道にして實に人として將又國家社會として萬古不易の礎石であります。

或は曰はん一瀬の說く所は古臭い道學者の口にするところにして今人の耳を傾むくるところにあらずと、然らば天地も日月も年々歲々變らずして古臭きにあらざるか。又云はん今日は人力車の時代にあらずして自動車の時代なり一顧の値なしと。然るに何んぞ知らん其の自動車の世となればなる程最もより良き道を選ばざれば危險の頗る多きことを茲に御注意申上げてお答と致します。

凡そ革新を唱へ國家の大事を成さんとする者は、金も要らぬ名も要らぬ命も要らぬといふ人にあらざれば遂行の出來ざることは、以上話中に申上げました人々を見ても正しく歷史の教ゆる處であります。卽ち何事も唯「誠」に歸一するのであります。併し政治を行ひ事業を興すには經濟と離るべからざることは申すまでもなく、「誠」さへあれば金錢を顧みるに足らずと申すのではありませぬ。個人的に物慾を戒しむるは勿論公私の經濟に於て「誠」の道に立つて大いに強く明るく經濟を講ずべしと唱ふるものであります。人は兎角一歩のことで道を誤り易いものでありますから茲に平生の修養を必要と致します。

明治天皇御製

ともすればあらぬかたにも履み迷ひ
教へ難きは人の道なり

目に見えぬところに神の裁きあり、聲なきところに大衆の批判あり、蓋し大衆はなく深く靜かに中正を持して賢なり。因果應報の理空しからず。汝に出でたるものは汝に還る。十目の視る處十手の指す處夫れ嚴なるかな。破壞

は易く建設は難し。守成に至つては更に難し。天地は正大にして國家は悠久なり。制度必ずしも人を制せず、人能く制度を制す。「天」なる哉「人」なる哉「誠」なる哉であります。願くは人となれ、眞の人となれよであります。

「誠」は正しき心の實在にして神と共に在り大自然の理法に適ひ最も明かに最も力強きものと信じます。之が道德の主基であり同時に人間の大本であり國本であります。卽ちこれぞ洵に國運隆昌の礎であります。

「誠」は生きものにして其場所に依りて千變萬化の姿を現はすも其の根本は天理の本然に歸一する堅固なる「誠」でなければなりませぬ。「誠」は明らかなるものにして、明らかなれば則ち「誠」が現はれたるものであります。

天地萬物と共に呼吸し、潮の差引と共に生死し、花開き花落ち實結び實熟し、日月四季の循環するは皆是れ自然にして亦實に「誠」の本體であります。

天言いはず四時行はれ百物成る。

音もなく香もなく常に天地は書かざる經をくりかへしつゝ。

野人禮に倣はず、願くは其の趣旨精神を容れられ、用語の不當を咎むるなからんことを謹みて御詫を兼ね御願ひ致して置きます。

今日は、冒頭に斷つて置きましたにも拘らず、いつか修身の先生になつたかも知れませぬ。且つ長時間に亙り秩序なく種々多岐多樣に渉りまして恐縮に存じます。併し世移り時變ると雖變らぬものは「誠」なりけりでありまして、單に之を人に求むるのみならず人も亦我に求めつゝありと存じます。

偶々この「誠」のお話が實業界に取りて時節柄剴切でありました爲か、皆樣がよく最終まで御淸聽下さいましたことは、非常に喜ばしく特に此の點を厚く感謝致しまして私の講演を終りと致します。

（終　り）

生きる涼しさ誠の外に道もなき　青々

若葉して誠を見する野山かな　春水

昭和十一年十月一日印刷
昭和十一年十月六日發行

【非賣品】

編輯兼發行人　大阪市北區堂山町七十番地　池上虎一

印刷者　大阪市西區京町堀上通二丁目十五番地　大原庄太郎

印刷所　大阪市西區京町堀上通二丁目十五番地　大原印刷社

終